平成23年 国際交通安全学会 研究調査報告会ならびに学会賞贈呈式に参加して

Project presentation symposium and awarding ceremony for the year of 2011 Organized by International Association of Traffic Safety Sciences

寺本　健[1)]

公益財団法人 国際交通安全学会（IATSS）[2)] 主催（会長　小口泰平　芝浦工業大学名誉学長）によるシンポジウム［平成23年度 研究調査報告会ならびに学会賞贈呈式］が4月13日（金）に、東京都内の経団連会館２Ｆホールにおいて開催された。ここにその概要を報告する。

今回のシンポジウムは、平成23年度に成果が明らかになった研究プロジェクトの中から4テーマについて報告がなされた。また国際交通安全学会賞は今年で33回目となり、交通と安全に関して多大の貢献をした業績等を顕彰するものである。

研究調査報告と研究論文の発表講演が、各プロジェクト研究者達によって実施された。そのシンポジウムの内容は次のとおりである。

１：子供から高齢者までの自転車利用者の心理行動特性を踏まえた安全対策の研究（H2304 Project）

PL：帝塚山大学　蓮花一巳教授

日本の自転車の事故率は欧米よりも高いが、自転車の利用実態や利用者の心理行動特性の研究はきわめて少ない。その中で平成21年度から事故分析、利用者意識調査を実施、平成22年度には高齢者行動分析と教育指導プログラムを実施、本年度はマニュアルや補助教材の作成を実施、技能コンテスト簡易手法を開発実践、さらに奈良県においてはモデル的活動の実施がなされた。

まとめとして、道路環境面、法制度整備などのさらに議論が必要だが、自転車安全対策は、小中高校生向けマニュアルや補助教材の作成、高齢者向け指導、一般利用者向け走行環境の整備など、対象別の安全対策提言がなされた。

２：安全でエコなラウンドアバウト[3)]の実用展開に関する研究（H2303　Project）

PL：名古屋大学大学院　中村英樹教授

欧米諸国では、安全で低コスト・低環境負荷（エコ）な平面交差部として、ラウンドアバウト（RBT）を積極的に導入している。約20万基に及ぶ信号機維持管理問題を抱え、災害時にも安全かつ自律的に機能する交差点が求められる日本においては、適切な箇所にRBTを導入することの意義が諸外国に増して高い。

しかし、RBT自体の認知度が低いことや実データの蓄積不足から、実用展開には至っていない。このため本格導入のための環境整備を目的として、2年間における社会実験と実データ収集を実施してきた。通

図 1. 国際交通安全学会賞贈呈式　会場

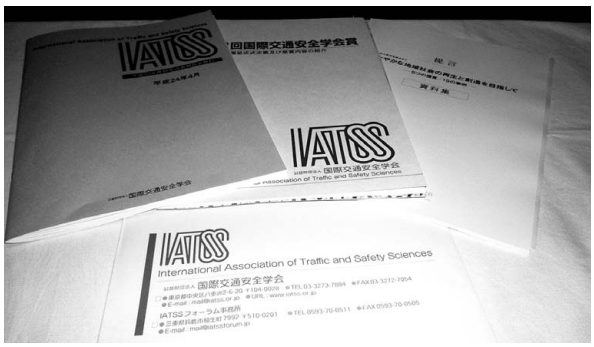

図 2. 講演会　資料

注1）NPO法人 日本自動車殿堂会員 イヤー賞選考委員会 選考主幹　自動車技術コンサルタント（株）KENTWORKS エンジニアリング代表

常交差点のRBT化の要件や、横断歩行者の感知式発光鋲システムの安全性向上効果の実証がなされ、本年度は長野県飯田市の社会実験の結果を踏まえ、日本初の画期的なRBT化改良交差点取り組みにつながった事例が報告された。

３：震災危機管理と安全・安心な交通社会の実現に関する総合的研究（H2314　震災特別Project）

PL：東京大学大学院　武内和彦教授

IATSSが学際性、実際性、先見性などの特質を最大限生かしつつ震災危機管理と安全・安心な交通社会の実現への寄与を目的に実施した。

Resilience, Redundancy, Compact-connectedをキーワードにしなやかな地域社会の構築、情報管理とアウェアネスの醸成、新しい地域産業の創出、機能依存する交通システム、負担ルールと法整備がとりわけ重要であるとする提言がなされた。

４：知的障害者のモビリティ確保のための都市公共交通の課題（H2308　Project）

PL：横浜国立大学大学院　中村文彦教授

これまでの先行研究がほとんどない一方で、その重要性が高まっている知的障害のある児童生徒の特別支援学校への通学問題を取り上げ、日本における問題点と課題の抽出、海外での先進的な取り組み事例の現地調査をベースに国内でプレ実験調査を実施した。その結果通学指導の課題や国の対応課題が明確にされた。ブラジルの事例やドイツの事例でシステム活用性や訓練の有用性が示された。

学会賞の贈呈においては、交通とその安全に関して成果が顕著となった9件の業績を対象に選定された。

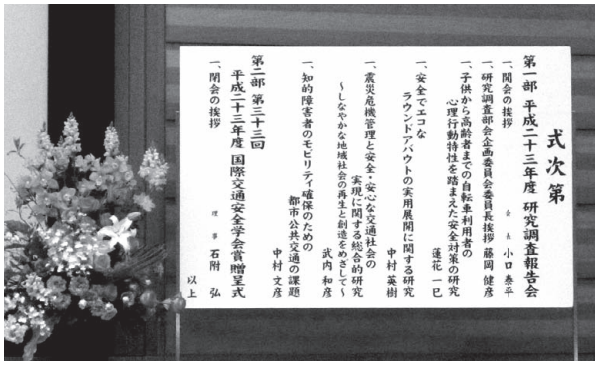

図３．　式次第

業績部門（1）では“東日本大震災における（くしの歯作戦）を中心とした救援・復旧事業”を地元の建設業、自衛隊、全国から派遣されたTech-Forceの方々の貢献により、さまざまな被災地救援を展開した国土交通省　東北地方整備局が受賞。

また“復興の促進と教訓を結ぶ研修プロジェクト～三陸・被災地フロントライン研修～”は震災を前向きに捕らえ、教訓を伝え、復興への支援に研修活動を通じて実現するという試みは、これまで見ることのなかった独創的な試みであり、大いに評価されるべきものであり、今後の発展が期待される三陸鉄道株式会社が受賞した。

著作部門（2）では過去2年間の新版出版物の中でより良い交通社会を目指す著作70点の中から優れた著作を選定する。名古屋大学の堀田典裕助教による“自動車と建築　―モータリゼーション時代の環境デザイン―”が受賞した。

これは本格的な自動車社会の到来から50年、モータリゼーションの発達とともに大きく変貌した国土、風景に、自動車とそれを取り巻く現代建築に着目した。これまで自動車のために作り出されてきた建築、都市のデザインと建築家の足跡を通して、その過程を再検証・評価したもので、サスティナブルな将来に向けたデザインの可能性を示唆したものである。

今回の講演発表者は、大学機関の研究者が主体であったが、企業のマネジメント、政府関係の研究者等の参加もあり、幅広い研究者参加の下で行われた。

またこのシンポジウムは、交通安全に関する研究者との意見交換の場となり、また法整備や自治体まで巻き込んだ提言があり多大なる成果が見られた。

IATSS主催のこのシンポジウムが開催されたこと、開催ご努力に感謝いたし、今後の更なる発展と継続を期待している。

注2）IATSS：公益財団法人 国際交通安全学会（会長 小口泰平芝浦工業大学名誉学長）〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-20：事務局　URL：www.iatss.or.jp

注3）ラウンドアバウト（Roundabout）とは、“環道交通流に優先権があり、かつ環道交通流は信号機や一時停止などにより中断されない、円形の平面交差部の一方通行制御方式”を言う。

〈参考文献〉 IATSS Projectプログラム、研究調査報告会資料受賞内容の紹介　概要ブック